

RYAN KEBERLE & CATHARSIS

現代のラージ・アンサンブルのシーンで自己のオーケストラやマリア・シュナイダー・オーケストラ他で必要不可欠の実力とセンスを持ち、シーンの第一人者として活躍しフラッグシップ・アンサンブル「カタルシス」のリーダー Ryan Keberle、既にワールドワイドで大きな話題を集め圧倒的なヴォイス・コントロールと飛翔感のある自在なギター・プレイで大人気の Camila Meza、国際ベーシスト協会ジャズ・コンペティで優勝し近年活躍著しい名手 Jorge Roeder を率いて大きな話題を呼んでいる。

[Profile]

Ryan Keberle ライアン・ケバリ : trombone



インディアナ州ブルーミントンでジャズ・トランペット教師の父とピアノ教師の母の間に生まれる。最初に手にした楽器はヴァイオリンで、スズキ・メソッドで習い、このときに聴音のスキルを培っている。5歳の頃からピアノを始め、その後10歳の頃に父親からトロンボーンを与えられ、ビッグバンドでの演奏を開始した。学生時代からプロの演奏家として活動し、ニューヨークでの最初の4年間は主にピアニストとして生計を立てていた。2003年に自身の名を冠したアルバムでデビュー、2010年には『Heavy Dreaming』をリリースした独創的なダブル・カルテット (Double Quartet) で注目を集める。ピアノレスのカルテットであるカタルシス (Catharsis) は2013年にアルバム『Music Is Emotion』でデビューしている。トロンボーン奏者としては、マリア・シュナイダー・オーケストラでの15年以上の在籍を始め、多数のビッグバンドでソリストとして活躍しグラミー賞を受賞した7枚の作品に参加するなどNYのジャズシーンでは欠かせない存在となり、米国のジャズ専門誌『JazzTimes』の投票で2020年の最優秀トロンボーン奏者に選出されている。

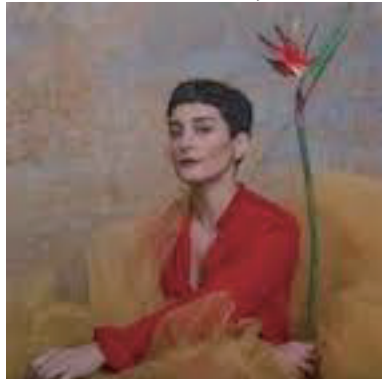
Jorge Roeder ホルヘ・ローダー : bass



ペルーのリマ出身。幼い頃にギターの練習を始め14歳の時にクラシックのチェロを学ぶ。16歳の時に奨学金を得てチェロの勉強のためにロシア留学する。帰国後、リマ・フィルハーモニー管弦楽団とオペラ・オーケストラの副首席チェリストに任命されるがクラシック演奏のかたわらジャズに興味を持つようになり奨学金を得てボストンのニューイングランド音楽院に入学する。音楽の学位を得て卒業後ニューヨークに拠点を移しジャズの演奏活動を本格的に始め、ジュリアン・ラージ、ソフィア・レイ、シャイ・マエストロ、ライアン・ケバリと長年にわたるパートナーシップを築く。また、ゲイリー・バートン、ネルス・クライン、ケニー・ワーナー、ジョン・ゾーンなどの革新者たちとも多数共演している。2007年、国際ベーシスト協会ジャズコンペティションで優勝など数多くの賞を受賞。2009年、セロニアス・モンク・ベース・コンペティションではセミファイナリスト選出されている。また、「ジュリアン・レイジグループ」のアルバムではグラミー賞にノミネートされている。

ホルヘ・ローダーは今日のジャズ界で最も多才で表現力豊かなベーシストの一人として知られており、シンフォニックな想像力とフォークミュージシャンの親密な抒情性、生々しいロッカーの攻撃的なエネルギーとアフリカ系ペルー人のルーツの軽快でリズムカルな感性を組み合わせ、確固たる基盤の中で幅広い影響力を伝えています。

Camila Meza カミラ・メサ : Guitar, Vocal



チリのサンティアゴ出身。幼少より、音楽好きの父や兄弟の影響でジャズ、フュージョンに興味を持つようになり、ハイスクールでギターを始める。最初は1970年代のジミ・ヘンドリックス、レッド・ツェッペリン等のロックに影響を受け高校卒業後、チリの「Projazz Institute」に入学してポピュラー音楽とジャズを学び在学中にギターだけでなく次第に歌唱にも興味を持つ。22歳の時にチリでデビュー・アルバム『Skylark』を発表しツアーやテレビ出演等の活動を重ねる。2009年、ビョーク、ジョニ・ミッチェル、レッド・ツェッペリン、南米圏からビクトル・ハラ (チリの国民的シンガーソングライター) ブラジルのイバン・リンスといった影響を受けたポピュラー音楽のカバー曲を収めたセカンド・アルバム『Retrato』を発表する。23歳で渡米し「ニュースクール大学」に入学する、同時に拠点をニューヨークに置き活動を始める。著名なクラブをはじめ、各所で公演を重ねてキャリアを積み一方、ポーランド、イタリア、ドイツ、フランスで開催

されている各国の音楽祭に出演する。同校を卒業後、アーロン・ゴールドバーグ (p) をパートナーに迎えアメリカでのデビューアルバムとなる『Prisma』を発表。2016年、サニーサイド・レコードと契約し『トレイセス』を発表。自作のタイトル曲を始め、ミュージカル曲をカバーし古典的なジャズの領域外からも題材をとっている。同年、ニューヨークを拠点にして活躍するピアニスト/シャイ・マエストロとのデュオで初来日し東京、静岡、京都などの著名ジャズクラブやホールに出演し喝采を浴びる。また、ジャズ・コンボだけでなく、室内楽編成 (弦楽) の実験的なユニット、「ザ・ネクター・オーケストラ」では、ポピュラー、ジャズ、クラシックとの交叉領域での表現を試みている (小川慶太や大村朋子が参加) メジャーデビューすると、カート・ローゼンウィンケルとも比較されるほどのジャズギターのテクニクとその美しい声で聴衆を魅了し、彼女の音楽センスは素晴らしいバランス感覚を持っている